

さくら道 共走記

No.65 あおたに 青谷 みずき 瑞紀

■ はじまり

可能性を越えていく姿を友人に伝えたい。そんな想いを秘めた初めてのマラソン大会、昨春200kを完走。川の道、雁坂、神宮24時間・・・自分からのリタイアはありえない、そう決めて走って来た。

■ 練習

2月末東京マラソンに当選し、初めての公式フルマラソンは友人のお葬式と重なった。泣きながらおにぎりを流し込みスタートラインに立った。負けず嫌いだった彼女に恥じぬよう、一歩一歩を全力で進める事に集中した。今後どんな事があっても、乗り越えて走って行ける、そんな気がした。

真冬のナイトラン練習、東京で、埼玉で、富山で、名古屋で・・・きっと皆も走ってる。ソロだけど心は共走。23時残業後、真夜中の河川敷115kを走る。どうしたらもっと強くなれるのか、どうしたら応援に報いる事が出来るのか。どうしたら、どうしたらを繰り返す日々。

■ さくら道

毎週土日の超ウルトラ・フルの連戦、ナイトラン、アドベンチャーレース訓練等。怪我や故障に注意しながら月間600kを走り、出来る事は全てした。疲労抜きも完璧、気力は十二分。手には、応援に駆けつけてくれた方から「楽しんで、そして、全力で！」のメッセージ。参加する人・作る人、みんなにとって素敵な大会にしたい、笑顔で走りきることにした。

国内外のランナーと共に走れる幸せ。縁を繋いでくれた佐藤良二さん、安孫子亮さん、誠心誠意迎えてくださるスタッフ・ボランティアの皆様感謝。

夜一。あれだけ練習したから、脚・胃腸・寒ささえ何ともない。ただ、立ってられないほど平衡感覚を失い、蛇行が止まらない。先を計算して、走る事をやめるのは避けたい、川の道でも決して諦めなかった。さくら道に来たのはチャレンジするため、再びエイドを出発し、冷たい雨の中へ。初リタイア。原因を走り込み不足だと思い込んでいたが、血液検査の結果、重度の貧血だった。

思い返せば・・・、レースで自分の為に走った事などなかった、ずっと人に向けて走ってきた気がする。大切な仲間や師匠に、言葉では表現出来ない溢れる想いを伝えるために一。

闘う友へのエールとして走ってきたのに一、何やってるんだろう・・・自分。

■ 逆走

雪の白川郷、応援のために仲間が逆走してくれていた。こんな雪の中、さくら道の真ん中で出会うことを目指して。そして私もまた、これを心の力として一。・・・なのに、行けなくて本当にごめん。申し訳なさで一杯、ただただ感謝しかない。心の底から出会いたかった。

「リベンジする時は、またいつでも逆走しますよ、さくら道で会いましょう。」優しさに救われた。

■仲間

心配した仲間からメッセージ。「みずきちゃんは今から経験を重ね、きっと素晴らしいランナーになることをみんなが知っています。リタイアから学ぶ、失敗から得ることがたくさんあることも・・・」「体は大丈夫ですか、実績作れば再選も可能、またチャレンジしてみてください」「私もまだまだ挑戦し続けるので一緒に楽しみましょう」「無事か、せっかくだから鍛え直してやるぞ」「今後の糧、さらなる飛躍を。」「一段と大きくなったみずきちゃんに会えるのを楽しみにしています」・・・他にもたくさん。

夢は一人で見るものでなく、応援してくれる方と、共に夢見て繋がっていくものだと思った。生活・生き方・自然を根元から捉え直し、この絆を心の底力に変えて行きたい。

■さくら道の種

続々とリタイアしてくる伝説のランナーが、ひよっこに様々な教えを託してくださった。

「次に完走証を貰う時はそりゃ嬉しいで～、初参加で貰うより何倍も価値があるから頑張りや！
桜の完走証、きっと金色に輝いてるで、絶対に大丈夫！」

皆、辛い環境の中でこそ、それをバネに逞しく走り続け、乗り越え、笑いー。
共にこの世を生き、共走する仲間だと気づかされた。これこそ私の心の中に蒔かれた、さくら道の種。
この種を大切に育てて、必ず再び佐藤桜に会いに行く事をここに誓います。

青谷 瑞紀